

「神武寺コース」ガイドマップ完成



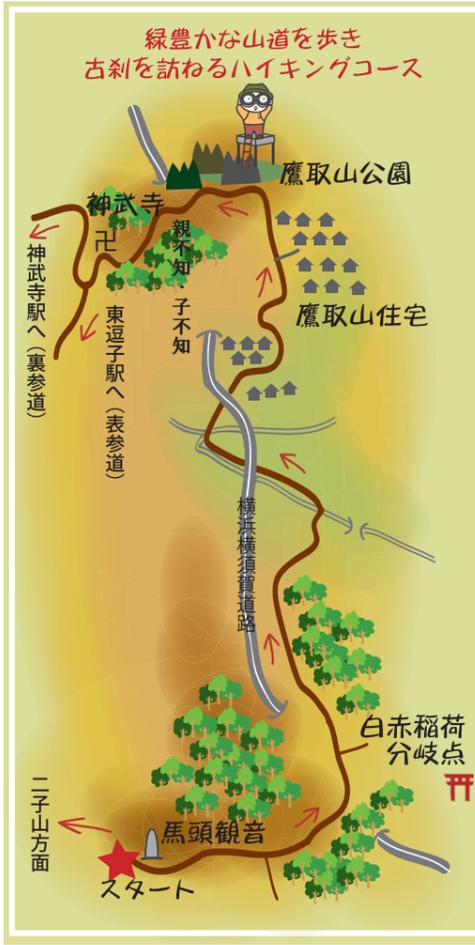
平成13年に発売以来、多くの山歩きファンへの支持を得ている「葉山・山歩き」発行のガイドブック「葉山の山歩きコース」に、新しいコースを単独で紹介するマップが加わった。地図・コース説明をあわせて一部50円で販売する。

このコースは、南郷上ノ山公園から森戸川分岐点を通って沼間方面へ抜ける北尾根縦走コースの途中にある「馬頭観音」からスタートし、鷹取山を通って神武寺へ行く約2時間40分のルートだ。

スタート地点である馬頭観音は標高約167メートルの二子山山系の中でもやや高い場所にある。ここから少しずつ下りながら沼間のバス通りに出て、住宅地

を通り抜け、緩やかに上りながらふたたび山道へ入る。やがて着く鷹取山公園には展望台があり、千葉方面やアクアラインまでも見渡せる。ここは明治から昭和にかけて石切り場だったため垂直に切り立った岩壁がいくつもあり、ロッククライミングをする人も多くやって来る。少し進むと「親不知・子不知」と呼ばれる崖があり、鎖をつたって進むのでちょっととしたスリルを味わえる。

やがて高台の神武寺に着く。静謐な森の中に本宮の薬師堂が見える。この鐘楼は逗子八景のひとつになっている。鐘楼の右下には江戸時代に建てられた来迎院があり、その先を左に進むと表参道で東逗子駅に着く。右は神武寺駅につながる裏参道で、苔むした山道を小川のせせらぎを聞きながらゆっくり下る心地よいハイキングコースである。



2018年9月25日発行 第33号
認定NPO法人葉山まちづくり協会
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
町立図書館2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail: o ce@hayama-npo.or.jp

葉山まちづくり協会 検索



10/13(土)
雨天の場合 翌14日(日)

第6回葉山ウォーク
ひげじいの絵葉書を見ながら社寺めぐり

「ひげじい」こと、石原忠さんスケッチによる季節感あふれる彩色絵葉書。

堀内の海岸に沿って、絵葉書入りの地図を片手に社寺を中心に13カ所を巡ります。

- 集合：9時20分 鏡摺バス停集合
- 服装：動きやすい服装、帽子、履きなれた靴
- 解散：葉山まちづくり館（葉山町立図書館2階）
- 持ち物：弁当、飲み物、レジャーシート
- お弁当は途中で購入できませんので、必ずご持参ください。
- 参加者：中学生以上 先着20名
- 参加費：1人300円（保険・資料代含む）

—申込み・問合せ—
認定NPO法人 葉山まちづくり協会
TEL・FAX：046-876-0421
Email：o ce@hayama-npo.or.jp
実施の確認は前日17時以降にHPをご覧いただくか、電話の留守電メッセージを参照してください。

秋のイベント情報

<p>第28回はやま環境フェスタ</p> <p>「みんなつながっている山・川・海」 はかってみよう身近な自然！ 生命の源である「水」に注目し、山・川・海の連続性や町内で活動している水に関するブース、リユースバザーや飲食店の出店もあります。</p> <p>10月14日(日) 11時～16時</p> <p>葉山町役場前明鏡止水周辺及び花の木公園</p> <p>はやま環境フェスタ実行委員会 090・21189・7719 (中山)</p>	<p>みんなで歌おう アミスタ(友情)会</p> <p>ピアノ伴奏でなつかしの名曲などをみんなで楽しく歌いましょう。</p> <p>10月14日(日) 14時～16時</p> <p>葉山町福祉文化会館 大会議室</p> <p>500円</p> <p>60才からの音楽教室 046・875・0029 (高梨)</p>	<p>下山川の清掃</p> <p>みんなで川をきれいにしよう。</p> <p>10月21日(日) 9時</p> <p>木古庭会館前集合 中止の場合28日が予備日</p> <p>木古庭町内会 葉山メダカの家</p>	<p>上山口文化祭</p> <p>11月24日(土) 10時～16時 11月25日(日) 10時～14時</p> <p>上山口会館</p> <p>葉山ふるさと絵屏風、ふるさと絵屏風かるた、郷土史、古文書、児童絵画、油絵、写真、生け花、手芸品、折り紙、盆栽など</p> <p>ふるさと絵屏風かるた、「郷土誌葉山」、和菓子、農産加工品、竹細工品、炭焼き品、地場産とれたて野菜の展示及び販売</p>	<p>木古庭文化祭</p> <p>11月17日(土) 10時～16時 11月18日(日) 10時～12時</p> <p>木古庭会館</p> <p>葉山ふるさと絵屏風、ふるさと絵屏風かるた、児童館生徒の作品、油絵、手工芸品、盆栽、フラワーアレンジメント、プラモデルなど</p> <p>ふるさと絵屏風かるた、コーヒー、地場産とれたて野菜即売、農産加工品、消防団による焼き鳥など</p> <p>野点処にて休憩できます</p>
--	--	---	---	--



最新号には、町所蔵古文書整理の成果が満載！ 葉山郷土史研究会

町からの委託を受け、町所蔵古文書の整理を進める葉山郷土史研究会。そこから生まれた新たな発見が、最新号『郷土誌 葉山』12号の基礎になっているという。資料整理の進捗状況と12号の見どころを副会長の鈴木雅子さんに聞いた。

今年4月『郷土誌 葉山12号』葉山町の歴史とくらし拾遺その2を発行しました。平成16年に創刊号を上梓して以来、町制施行90周年記念『葉山町の歴史とくらし』の編さんに携わった2年間を除き、毎年1冊の発行を続けています。



古文書調査中

90年史を編さん中の4年前、役場の地下に保管されている古文書の箱を調査させていただきました。県立公文書館が以前調査してリストアップした『神奈川県古文書資料所在目録第25集』（公文書館のサイトから閲覧可能）は、箱の内容とリストとの違いが散見され整理が必要な状態でした。そこで調査整理の委託を受け、リストの不備を修正する作業を2年間行い、町と県立公文書館に修正リストを納入。今年になって未調査の箱が7箱見つかり、調査を進めている最中です。明治初年から三浦郡の行政組織はめま

ぐるしく再編を重ねます。明治22年に今の大字6村が合併して葉山村となるのですが、大区小区制時代や連合戸長役場時代の史料もありました。12号は、それらの資料をもとに会員が執筆したものなど新たな知見満載です。初期の徴兵制度では9割強が免役になっていた事実、米沢牛を世に広めたダラス一家が、明治12年に横浜居留地から葉山に遊びに来たときの止宿屋と交通手段を追跡した記録、仙元山山頂石碑の「肝煎」という刻字に、名主を「肝煎」と呼んだ会津藩の堀内村領有時代の名残を見つけた話。現在は暗渠化も進んでいる下山川の支流を大正15年の資料から蘇えらせた原稿など。グラビアには寛政5年に松平定信老中の巡視に同行した谷文晁の「公余探勝図巻」から葉山沿岸を描いた絵を載せています。



本文より抜粋

葉山で活躍中の2団体をご紹介します



NPO 法人 日本防災士会 葉山町支部

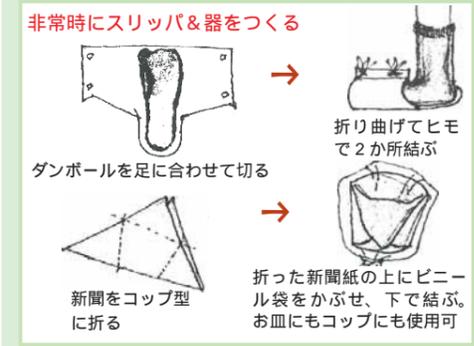
異常気象の影響などで、予想を超えた災害が多発する昨今、地域における防災の取り組みは、ますます重要なものとなっている。今、大事なことは、自分たちの身は自分たちで守るという意識と体制づくりだ。そんな中、町民にとって心強い団体が、葉山まちづくり協会に新加入した。



支部員は14人。まだまだ足りない

母体の「日本防災士会」は「減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつ、そのために十分な意識・知識・技能を有する者」と認められた「防災士」の有資格者で構成される会で、防災啓発活動や被災地支援など災害に対する取り組みを全国で行っている。阪神淡路大震災の際、防災知識を有する人が十分いれば、多くの命が救えたはずだ、との教訓から設立されたという。

葉山町支部は平成22年に設立。各地の支部とネットワークでつながりながら、地域に根ざした活動を行っている。情報交換を主とした定例会を毎月行うほか、防災に関わる研修で講師を努めたり、各地区の避難訓練へ参加したり……。活発な活動ぶりに支部員の熱意がうかがえる。



出前講座のテキストからは、鈴木久さん。その原動力は「身近な人の役に立ちたい」という思いだそう。そんな思いをつなげ、広げていくのもこの会の大きな意義なのかもしれない。

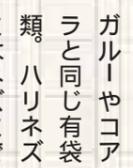
生徒たち、癒されています

葉山中学校の生きものたち



ハコフグ

葉山中学校の理科室。廊下にならぶ水槽とゲージ。ここにはたくさん種類の生きものたちがいる。カメに熱帯魚、メダカにウーパールーパー。フクロモモンガにハリネズミ。理科の横地先生が少しずつ理科室に連れてきた。



ハコフグ

最近、仲間になったのはハコフグ。横須賀・荒崎の海からやってきた。泳ぐ姿を見てみると愛らしくいつまでも飽きない。ウーパールーパーはゴミ捨て場に水槽ごと捨ててあったのを引き取った。その後、科学部が大事に育成して、新たな命も誕生した。新たに増えた仲間にはメダカもいる。このメダカは葉山町内で活動している「葉山メダカ会」の皆さんからいただいた。

フクロモモンガのシンジロウ



フクロモモンガのシンジロウ

科学部の生徒たちは、そのほかにもカラリーになるのか観察中。一見、この動物は何科に属するのだろうと考えるにしまつよう。例えばフクロモモンガはカン

ガルイーやコアラと同じ有袋類。ハリネズミはネズミではなくハリネズミ科。ウーパールーパーは両生類だが、子どものころから姿を変えないまま成長する貴重な生きものだ。葉山中学校にやってきた仲間には、捨てられたり、育てられなくなった人から譲り受けた生きものもいる。学校にやってきた理由もまた、生き物の命について生徒たちが感じる学びにつながっていく。

こんなにはたくさん種類の生きものを見ることのできる学校はあまりないだろう。理科室で長い時間を過ごしていく生徒たちもいるようだ。

横地先生は、生徒たちが自然に興味・関心を持ち、観察や世話をするをとおして、おのずと命の尊さやさまざまな学びを得ることができている環境を提供してくれているようだ。葉山中学校の生きものたちは、生徒たちにとってかけがえのない存在となっている。



赤い目をしたハリネズミ

赤い目をしたハリネズミ。一見、この動物は何科に属するのだろうと考えるにしまつよう。例えばフクロモモンガはカン



アカハライモリ

アカハライモリ。ものたちは、生徒たちにとってかけがえのない存在となっている。

森山神社例大祭でその大事な役を務めるのは「相州葉山一色木遣保存会」。平成8年の行合祭で誕生してから20年以上

「今日はめでたの目出た目出たの枝も栄えて皆さんたのむよ。今日の祭りは御苦勞ながらも頼む者の衆。つきもまたたのみますぞよ。その声さます中の綱から」

「相州葉山一色木遣保存会」によって葉山に根付いた新しい伝統「木遣り」を、守り受け継ごうとする人が増えている。伝統文化に触れ、育て残そうとする風潮が流れていることは、葉山町の宝であり大きな誇りだ。

「相州葉山一色木遣保存会」によって葉山に根付いた新しい伝統「木遣り」を、守り受け継ごうとする人が増えている。伝統文化に触れ、育て残そうとする風潮が流れていることは、葉山町の宝であり大きな誇りだ。

木遣りのある町



相州葉山一色木遣保存会

厳しい暑さが残る8月25日・26日、今年も森山神社例大祭の神輿渡御を先導する木遣りの力強い歌声が、一色の街に響いた。神輿渡御は、街を練り歩きこの一年人々が安寧に暮らせたことを報告し、幸福を祈願する神事。木遣りは祝いの木遣り唄で後に続く御神輿、お囃子を先導する。

「今日はめでたの目出た目出たの枝も栄えて皆さんたのむよ。今日の祭りは御苦勞ながらも頼む者の衆。つきもまたたのみますぞよ。その声さます中の綱から」



遣り声をあげる伊藤会長（中央）

「今日はめでたの目出た目出たの枝も栄えて皆さんたのむよ。今日の祭りは御苦勞ながらも頼む者の衆。つきもまたたのみますぞよ。その声さます中の綱から」

「今日はめでたの目出た目出たの枝も栄えて皆さんたのむよ。今日の祭りは御苦勞ながらも頼む者の衆。つきもまたたのみますぞよ。その声さます中の綱から」